

令和 7 (2025)年度第 1 回 まち・ひと・しごと創生会議

令和 7 (2025)年 8 月 25 日
みよし市企画政策課

所属	氏名 (50音順、敬称略)
小中学校PTA連絡協議会	天野 卓
豊田信用金庫 三好支店	天野 好浩
区長会代表	伊藤 正彦
みよし市農業委員会	岩田 信男
ひまわりネットワーク株式会社	小田 昌樹
子育てクラブ連絡協議会	川島 侑実
みよし商工会	加藤 哲司
みよし市工業経済会	坂田 浩己
連合愛知豊田地域協議会	曽根 篤
県立三好高校	千田 圭太
あいち豊田農業協同組合 三好支店	野々山 清
東海学園大学 学生	東 翔天
東海学園大学	米本 倉基
事務局	企画政策課

1. 議題

1. 第2期みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績検証について
2. 第3期みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

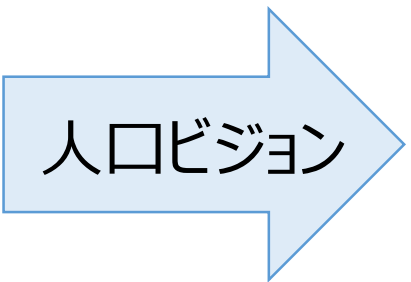
1. 議題

1. 第2期みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績検証について
2. 第3期みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

第2期みよし市まち・ひと・しごと創生

・人口ビジョン
・総合戦略 で構成

令和3年3月
みよし市



「合計特殊出生率及び移動率の維持 ⇒ 自然増を促進し社会減を抑制」

市内で生まれるこどもの数を維持し、市内への転入を促進させ、転出を抑制する。

【人口の将来展望】 令和20(2038)年に65,000人を目指す。



総合戦略（2021～2025年度の5年間）

【基本目標Ⅰ】	【基本目標Ⅱ】	【基本目標Ⅲ】
安心して子育てできる環境づくり 若い世代が安心して子育てできるまちを目指し、「安心して子どもを産み・育てることができる環境をみんなで築く」をスローガンに掲げ、「合計特殊出生率」・「出生数」の増加を目指します。 ①結婚・子育てに関する支援 ・出会いの場の創出支援 ・出産に対する支援の充実 ・母子保健対策の充実 ・医療費助成の充実 ・子育てを楽しむ環境づくり ・保育サービスの充実 ・家庭教育の充実 ・児童の健全育成 ②学校教育の充実 ・教育環境の充実 ・魅力ある学校づくり ・良好な教育環境の整備 ③仕事と生活の調和に関する支援 ・育児サポートの充実 ・子育て世代の就労支援	暮らしたいと思える環境づくり 多様な世代が、安全・安心にいつまでも暮らしたいと思えるまちを目指し、「住んでみたい、住みやすい環境をみんなで築く」をスローガンに掲げ、「転入・転出人口比率」・「生産年齢（15～64歳）人口比率」の増加を目指します。 ①多様な世代を誘引する仕組みづくり ・地域循環共生圏の形成 ・住宅に関する支援 ・世代循環の仕組みづくり ・雇用対策の充実 ・企業誘致の推進 ・創業の支援 ・企業の競争力強化の支援 ②公共交通ネットワークの確保 ・公共交通の利用環境の向上 ・最適化した移動サービス ③安全・安心なまちづくり ・防災力・減災力の向上 ・防犯力の向上 ・交通安全対策の推進 ④魅力と活力のあるまちづくり ・シティブランディングの推進 ・まちの魅力の向上 ・まちの活力の向上 ・関係人口・交流人口の拡大 ・協働のまちづくり ・地産地消の推進 ・みよし産農産物のブランド化推進	誰もが健康に暮らせる環境づくり 市民一人ひとりが健康で、生涯を通して活躍できるまちを目指し、「子どもから高齢者まで主体的な健康づくりができる環境をみんなで築く」をスローガンに掲げ、「健康寿命」・「成人のスポーツ実施率の割合」の増加を目指します。 ①健康づくりの支援 ・健康づくりの推進 ・健康寿命の延伸 ・介護予防・認知症予防の推進 ・地域包括ケアシステムの構築 ・スポーツによる健康づくり ・良好な運動環境づくり ②生涯活躍できるまちづくり ・誰もが活躍できる環境づくり

第3期総合戦略策定に向けて準備を進める。

別添

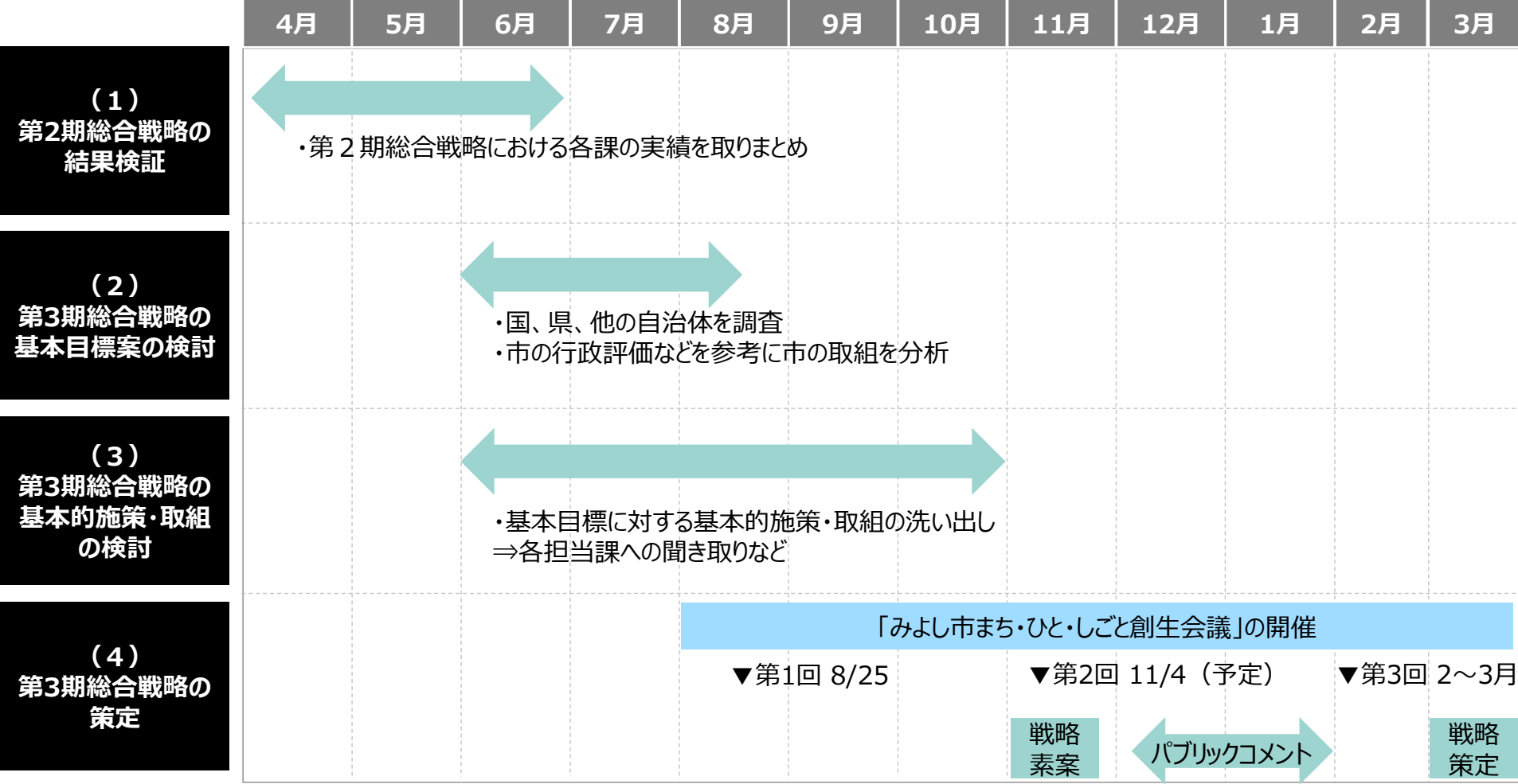
- ・資料1：第2期総合戦略 数値目標・KPIの結果
- ・資料2：第2期総合戦略検証および第3期総合戦略に向けた方向性

参照

1. 議題

1. 第2期みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績検証について
2. 第3期みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

第3期総合戦略策定の進め方



別添

- ・資料3：第3期総合戦略における基本目標（案）
- ・資料4：第2期人口ビジョンの検証および第3期人口ビジョン（案）

参照

第2期みよし市まち・ひと・しごと総合戦略 数値目標・KPIの結果

評価方法

A：R7年度目標値を達成

B：R7年度目標値が未達だが、R1年度基準値を維持又は推進

C：R7年度目標値が未達であり、R1年度基準値よりも後退

基本目標	基本的施策	数値目標・KPI	実績	令和元年度 (基準値)	令和7年度 (目標値)	評価
			令和6年度末			
基本目標Ⅰ 安心して子育てできる環境づくり		合計特殊出生率（単年）	1.48	1.64	1.65	C
		出生数（人）	431	546	570	C
	①結婚・子育てに関する支援	保育園待機児童数（人）	29	19	0	C
		みよびよ登録者数（人）	1,681	1,033	2,650	B
		乳幼児健診の受診率（％）	96.9	97.8	98.0	C
		乳児家庭訪問の割合（％）	95.0	94.2	95.0	A
	②学校教育の充実	学校が楽しいと思う児童の割合（％）	92.8	92.0	95.0	B
		学校が楽しいと思う生徒の割合（％）	88.4	88.5	90.0	C
		タブレット端末を活用した授業が分かりやすい・楽しいと感じる児童の割合（％）	85.2	－	85.0	A
		タブレット端末を活用した授業が分かりやすい・楽しいと感じる生徒の割合（％）	85.0	－	85.0	A
		不登校児童出現率（％）	2.2	0.8	0.5	C
		不登校生徒出現率（％）	7.3	3.4	3.0	C
	③仕事と生活の調和に関する支援	産後ホームヘルプの利用者数（人）	16	9	15	A
		産後ケアの利用者数（人）	76	28	30	A
		要支援者の支援プラン作成者数（人）	302	324	320	C
		ファミリーサポートセンター利用者数（人）	221	328	550	C
		放課後児童クラブ待機児童数（人）	11	15	0	B
基本目標Ⅱ 暮らしたいと思える環境づくり		転入・転出口比率（％）	100.8	95.0	106.0	B
		生産年齢（15～64歳）人口比率	66.8	66.7	66.2	A
	①多様な世代を誘引する仕組みづくり	暫定用途地域の面積（ha）	5.5	34.0	6.0	A
		企業・創業件数（市が支援した）	14	7	10	A
		就労者数（ジョブサポートを通じた）	156	200	210	C
	②公共交通ネットワークの確保	公共交通全体の年間利用者数（人）	2,724,405	3,130,928	3,170,000	C
		さんさんバスの年間利用者数（人）	379,277	280,590	321,000	A
	③安全・安心なまちづくり	市内での火災出動件数（件）	16	20	18	A
		防災訓練参加率（％）	14.0	28.2	30.0	C
		防災講座参加人数（人）	232	234	300	C
		市内での犯罪発生件数（件）	404	348	300	C
		防犯パトロール隊員数（人）	1,289	1,618	1,650	C
		市内での人身交通事故件数（件）	127	198	180	A
		歩行者保護モデルカー活動事業の事業所数（事業所）	41	38	50	B
	④魅力と活力のあるまちづくり	観光客数（人）	136,000	122,000	124,500	A
		ふるさと納税の寄付件数（件）	2,957	361	1,000	A
		食育の普及に関する事業・活動数（事業）	93	102	118	C
基本目標Ⅲ 誰もが健康に暮らせる環境づくり		健康寿命（男性）（歳）	81.47	81.16	81.20	A
		健康寿命（女性）（歳）	84.97	84.89	85.00	B
		成人のスポーツ実施率の割合（％）	44.6	42.5	65.0	B
	①健康づくりの支援	健康アプリ登録者数（人）	536	—	1,000	B
		介護予防教室の参加者数（人）	15,685	10,369	10,900	A
		認知症カフェの箇所数（か所）	5	5	8	B
		総合体育館トレーニングルームの年間利用者数（人）	14,752	18,528	20,000	C
		市民1人あたりの公園面積（㎡）	16.59	14.94	16.20	A
	②生涯活躍できるまちづくり	認知症サポーターの養成延べ人数（人）	24,637	18,465	27,500	B

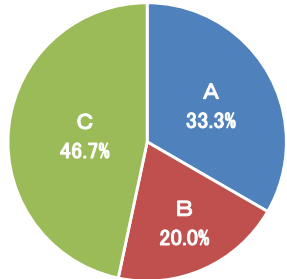
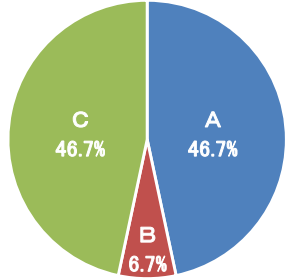
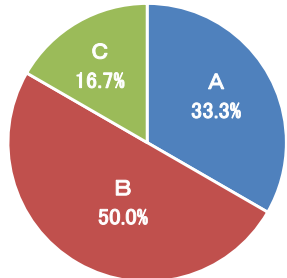
第2期みよし市まち・ひと・しごと総合戦略 数値目標・KPIの結果〈総括〉

資料1

基本目標	評価指標	評価
Ⅰ 安心して子育てできる環境づくり	合計特殊出生率（単年）	C
	出生数（人）	C
Ⅱ 暮らしたいと思える環境づくり	転入・転出口比率（％）	B
	生産年齢（15～64歳）人口比率	A
Ⅲ 誰もが健康に暮らせる環境づくり	健康寿命（男性）（歳）	A
	健康寿命（女性）（歳）	B
	成人のスポーツ実施率の割合（％）	B

＜施策の評価＞

	A	B	C	合計
Ⅰ 安心して子育てできる環境づくり	5	3	7	15
	33.3%	20.0%	46.7%	100.0%
Ⅱ 暮らしたいと思える環境づくり	7	1	7	15
	46.7%	6.7%	46.7%	100.0%
Ⅲ 誰もが健康に暮らせる環境づくり	2	3	1	6
	33.3%	50.0%	16.7%	100.0%
合 計	14	7	15	36
	38.9%	19.4%	41.7%	100.0%

Ⅰ 安心して子育てできる環境づくり	
	基本目標の評価指標である「合計特殊出生率」の評価は【C】、「出生数」の達成割合の評価は【C】である。 基準値を上回った施策のKPI（【A】と【B】の合計）は53.3%（15項目中8項目）となっている。 目標未達が見込まれる要因として、需要の増加（保育園・放課後児童クラブ待機児童数）、施策の変更（みよび登録者数、不登校児童・生徒出現率）、外部環境（要支援者の支援プラン作成者数、ファミリーサポートセンター利用者数）などが挙げられる。
Ⅱ 暮らしたいと思える環境づくり	
	基本目標の評価指標である「転入・転出口比率」の達成割合の評価は【B】、「生産年齢人口比率」の達成割合の評価は【A】である。 基準値を上回った施策のKPI（【A】と【B】の合計）は56.3%（16項目中9項目）となっている。 多様な世代を誘因する仕組みづくり、魅力と活力のあるまちづくりは、目標達成が見込まれるKPIが多い。一方、安全・安心なまちづくりは目標未達が見込まれるKPIが多く、担い手の確保などが課題として挙げられている。
Ⅲ 誰もが健康に暮らせる環境づくり	
	基本目標の評価指標である「健康寿命（男性）」は【A】、「健康寿命（女性）」及び「成人のスポーツ実施率の割合」の達成割合の評価は【B】である。 基準値を上回った施策のKPI（【○】と【B】の合計）は66.6%（6項目中4項目）となっている。 目標未達が見込まれる健康アプリ登録者数は周知が課題である。総合体育館トレーニングルーム年間利用者数は、コロナ禍に大きく減少し、近年回復傾向にあるが、令和元（2019）年の利用者数は下回っている。

評価方法

A：R7 年度目標値を達成

B：R7 年度目標値が未達だが、R1 年度基準値を維持又は推進

C：R7 年度目標値が未達であり、R1 年度基準値よりも後退

第2期みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標ごとの検証結果

基本目標Ⅰ 安心して子育てできる環境づくり		「合計特殊出生率」および「出生数」は、いずれも実績値が令和7年度目標に届かず、基準値を下回っている。			
基本的施策		重要業績評価指標（K P I）に関する評価結果		令和7年度目標値を達成できない理由	第3期総合戦略策定に向けた課題
① 結婚・子育てに関する支援	A	乳児家庭訪問の割合		－	①自治体の取組のみだけでは、成果指標を大きく推進させることが困難 （例：合計特殊出生率、出生率など） ②他の施策の成果による影響を受けやすい成果指標において、当該取組の推進が困難 （例：保育園・放課後児童クラブ待機児童）
	B	乳幼児健診の受診率		里帰り先の自治体で健診受診する人も一定数存在するため。	
	C	保育園待機児童数		保育料の軽減や第2子以降の無償化などに伴う急激な保育需要が待機児童対策を上回ったため。	
		みよびよ登録者数		令和6(2024)年4月1日から「子育て応援アプリ」に移行したため。	
② 学校教育の充実	A	タブレット端末を活用した授業が分かりやすい・楽しいと感じる児童の割合		－	③施策・取組の考え方の変化による成果目標と取組の方向性のミスマッチ （例：不登校児童・生徒出現率など） ④目標達成間近における成果指標の伸び悩み （例：乳幼児健診の受診率など）  ①本市の取組成果が反映させることができる成果指標の検討 ②他の取組との相乗効果が期待できる成果指標の検討 ③現状の課題及び中期的な展望の検討 ④代替の成果指標または「●●以上」といった表現の言い換えの検討 <その他> ◆各基本的施策において、現在、特に力を入れている取組を洗い出し、当該取組成果の評価が行える指標の検討が必要
		タブレット端末を活用した授業が分かりやすい・楽しいと感じる生徒の割合			
	B	学校が楽しいと思う児童の割合		価値観が多様化し、学校以外の居場所を求める児童・生徒が一定数存在するため。	
		学校が楽しいと思う生徒の割合			
	C	不登校児童出現率		不登校対策の方針として、不登校児童・生徒数を減らすことなく、個に応じた学びの場を提供していくことに重点を置いているため。	
		不登校生徒出現率			
③ 仕事と生活の調和に関する支援	A	産後ホームヘルプの利用者数		－	
		産後ケアの利用者数			
	B	要支援者の支援プラン作成者数		支援プラン作成の割合は増加しているが、母数となる出生数が減少しているため。	
	C	ファミリーサポートセンター利用者数		コロナ禍による利用者減を短期間で回復することができなかったため。	
		放課後児童クラブ待機児童数		待機児童対策として他の児童クラブへのタクシー移送を実施しているが、在籍校以外の児童クラブの利用を希望されない児童（保護者）が一定数存在するため。	

評価方法

A：R7 年度目標値を達成

B：R7 年度目標値が未達だが、R1 年度基準値を維持又は推進

C：R7 年度目標値が未達であり、R1 年度基準値よりも後退

資料 2

第2期みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標ごとの検証結果

基本目標Ⅱ 暮らしたいと思える環境づくり

「生産年齢人口比率」は、実績値が令和7年度目標を達成し、「転入・転出人口比率」は、目標は達成できなかったが基準値は上回った。

基本的施策		重要業績評価指標（K P I）に関する評価結果		令和7年度目標値を達成できない理由	第3期総合戦略策定に向けた課題
① 多様な世代を誘引する仕組みづくり	A	暫定用途地域の面積		—	①新型コロナウイルスの影響による新しい生活様式により、既存の目標値の達成が困難（市の施策・取組のみだけでは、成果指標を大きく推進させることが困難） （例：公共交通全体の年間利用者数など） ②既存の取組が形骸化しつつあり、成果指標の推進が鈍化 （例：防災講座参加人数、防災参加率など） ③別の計画における目標値の見直しが未反映 （例：食育の普及に関する事業・活動数など）  ①社会的背景を踏まえ、本市の取組成果が反映させることができる成果指標の検討 ②成果指標に変化（推進）を与えることができる取組の検討 ③当該取組を所管する計画の目標値などの反映 <その他> ◆基本的施策における各取組について、市の取組成果を総合的に評価できるよう、施策の再編または基本的目標の再検討が必要 （※各取組が具体的かつ局所的であると 感じられる。）
		起業・創業件数（市が支援した）			
		就労者数（ジョブサポートを通じた）			
	B	なし		—	
	C	なし		—	
② 公共交通ネットワークの確保	A	さんさんバスの年間利用者数		—	
	B	なし		—	
	C	公共交通全体の年間利用者数		新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少した利用者は徐々に回復しているが、新しい生活様式の在り方が浸透し、目標値を設定した頃の状況には戻らないと考えるため。	
③ 安全・安心なまちづくり	A	市内での火災出動件数		—	
		市内での人身交通事故件数			
	B	防災講座参加人数		防災リーダーの新規参加者の伸びが鈍化してきているため。	
		市内での犯罪発生件数		タイヤ盗や自転車盗など、それほど意識の向かない物への被害が増加しているため。	
		歩行者保護モデルカー活動事業の事業所数		現状から目標値までの事業者の増加が見込めないため。	
	C	防災訓練参加率		参加者が固定化してきており、新規参加者が見込めない状況であるため。	
		防犯パトロール隊員数		高齢化が進んでおり、新しい隊員の増加が厳しい状況であるため。	
④ 魅力と活力あるまちづくり	A	観光客数		—	
		ふるさと納税の寄付件数			
	B	食育の普及に関する事業・活動数		令和6（2024）年3月に策定した「第4次食育推進計画」で目標値を見直したため。	
	C	なし		—	

評価方法

A：R7 年度目標値を達成

B：R7 年度目標値が未達だが、R1 年度基準値を維持又は推進

C：R7 年度目標値が未達であり、R1 年度基準値よりも後退

第2期みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標ごとの検証結果

基本目標Ⅲ 誰もが健康に暮らせる環境づくり		「健康寿命（男性）」は、目標を達成した一方、「健康寿命（女性）」および「成人のスポーツ実施率の割合」は目標値に届かなかった。		
基本的施策	重要業績評価指標（K P I）に関する評価結果		令和7年度目標値を達成できない理由	第3期総合戦略策定に向けた課題
① 健康づくりの支援	A	介護予防教室の参加者数	—	①新型コロナウイルスの影響による新しい生活様式により、既存の目標値の達成が困難 （例：総合体育館トレーニングルームの年間利用者数） ②関心が薄い市民層への取り込みが困難 （例：健康アプリ登録者数）  ①社会的背景を踏まえ、本市の取組成果が反映させることができる成果指標の検討 ②成果指標に変化（推進）を与えることができる取組の検討 その他 ◆他の基本的目標と比べて、基本的目標が限定的であり、基本的施策の範囲も狭小であるため、施策の再編または基本的目標の再検討が必要
		市民1人あたりの公園面積		
	B	認知症カフェの箇所数	既存の認知症カフェが2か所廃止となるが、新規に2か所開設予定である。	
		総合体育館トレーニングルームの年間利用者数	新型コロナウイルス感染症の拡大における施設の利用制限や利用者の活動停滞、多様な生活様式や時間的な制約の影響を受けたため。	
② 生涯活躍できるまちづくり	C	健康アプリ登録者数	健康づくりに関心のある一部の市民にしか興味を与えられていないため。	
	A	認知症サポーターの養成延べ人数	—	
	B	なし	—	
	C	なし	—	

第3期総合戦略に向けた方向性

みよし市の 強み	・自動車関連企業が多く存在する、名古屋市の通勤圏 ・男性は製造業、卸売業・小売業、建設業が多く、女性は製造業、医療・福祉、卸売業・小売業が多い	➡	働く場が豊富
	・自然が豊か ・公園が多い	➡	緑豊かな居住環境
	・道路網をはじめとするインフラが充実	➡	近隣及び遠方へのアクセスが容易
	・出生数が減少傾向にあるものの、合計特殊出生率は愛知県平均よりも高い ・未婚率は増加傾向にあるものの、全国平均よりも低い ・社会増よりも自然増の方が多い	➡	子育て環境の充実により定住化への期待が持てる
みよし市の 弱み	・核家族世帯割合が高い ・持ち家率は近隣市町に比べやや低い	➡	超長期的な人口の安定には弱い
	・昼夜間人口比率は1.0以上であるが減少傾向 ・転入数は横ばいだが、転出数が増加傾向のため社会増が減少傾向となっている ・近隣市町からの転入・転出状況では、豊田市、刈谷市、豊明市からは転入超過（社会増）となっているが、日進市、東郷町、岡崎市、長久手市、天白区、緑区へは転出超過（社会減）となっている。	➡	5年前と比べて吸引力が弱くなっている

【方向性】

- ◆ 3つの基本目標すべてにおいて道半ばであるが、みよし市を取り巻く社会情勢の変化などを踏まえ、**新たな視点を取り入れた基本目標の見直し**を行う。
- ◆ 「I 安心して子育てできる環境づくり」に関する施策の評価が基本目標の中で最も低いことから、**こども・子育てに関する取組を強化**する。
- ◆ みよし市の強みを活かし、「仕事」「交流」「子育て」「魅力向上」に関する施策を充実させる。
- ◆ **長期的な人口の安定**に向けて、暮らしやすく、住み続けたいと思えるまちづくりを推進する。

新たな視点

デジタルの活用

国が掲げる「デジタル田園都市国家構想」を踏まえ、各取組におけるデジタル実装を通じ、社会課題の解決や魅力向上のための地方の取組を推進し、「**どこでも誰でも便利で快適に暮らせる社会**」を目指す。

地方に仕事をつくる

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

人の流れをつくる

魅力的な地域をつくる

地方創生 2.0

令和7(2025)年6月に閣議決定した国の「地方創生 2.0」の考え方を踏まえ、本市の地方創生に貢献し、**目に見える成果を見出せる具体的な取組**を推進する。

地方創生 2.0

①安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生

②稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生

③人や企業の地方分散

④新時代のインフラ整備とAI・デジタルなどの新技術の徹底活用

⑤広域リージョン連携

社会情勢の変化

目まぐるしい**社会情勢の変化への順応**を図る。

人口減少・少子高齢化

インフレ基調への転換

大規模災害のリスク

ウェルビーイング向上

外国人材・外国人旅行者の増加

共生社会

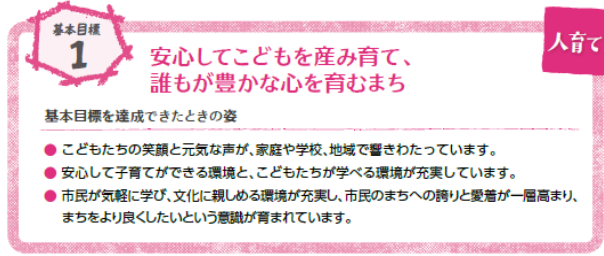
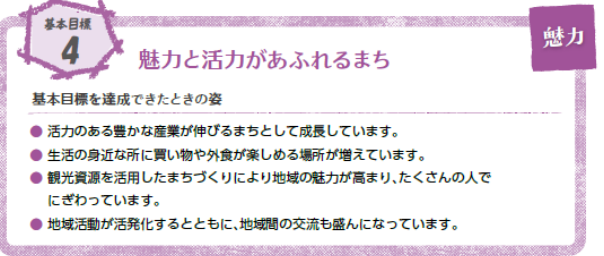
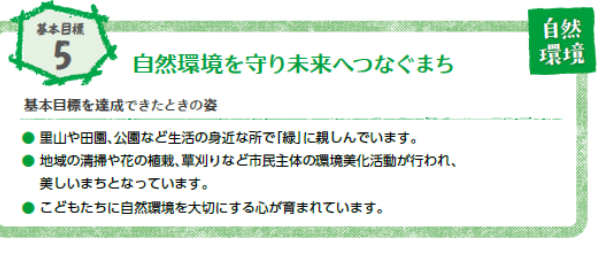
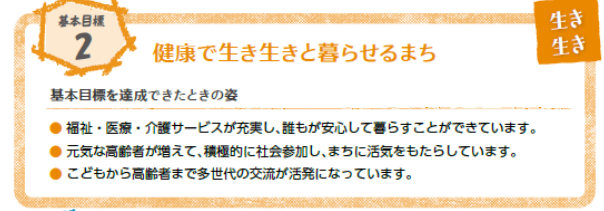
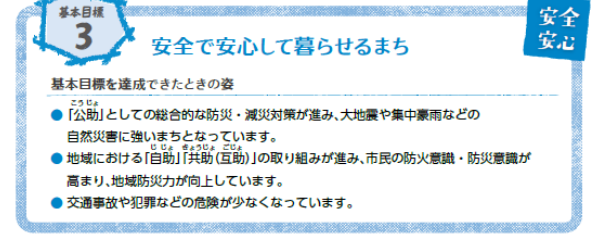
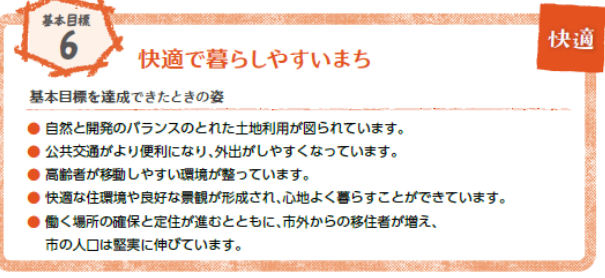
こどもまんなか社会

人生100年時代

第3期総合戦略における基本目標（案）

資料3

「第2期みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標ごとの検証結果」および「第3期総合戦略に向けた方向性」を踏まえ、
第3期総合戦略における基本目標（案）を次のとおりとする。

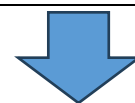
基本目標		基本的施策（例）	デ ジ タ ル の 力 の 活 用	第2次みよし市総合計画後期基本計画との関係	
基本目標Ⅰ	安心して子育てできるまちづくり 【参考：第2期総合戦略】 安心して子育てできる環境づくり	◆結婚・出産・子育てに関する支援 ◆教育の充実 ◆仕事と生活の調和に関する支援 ◆その他基本目標に資する施策（※）		 取組方針3「文化に親しみ、交流が盛んなまちにしよう」は、「基本目標Ⅱ」に包含	
基本目標Ⅱ	魅力的で活力があふれるまちづくり 【参考：第2期総合戦略】 暮らしたいと思える環境づくり	◆企業立地の促進に関する支援 ◆観光資源の活用推進 ◆地域活動の活性化、地域間交流 ◆自然環境の保護や循環型社会の実現 ◆余暇活動の充実 ◆その他基本目標に資する施策（※）		 	
基本目標Ⅲ	暮らしの安心を支えるまちづくり 【参考：第2期総合戦略】 誰もが健康で暮らせる環境づくり	◆福祉・医療・介護サービスの充実 ◆自然災害に強いまちづくり ◆快適な住環境の整備 ◆働く環境の改善に関する支援 ◆その他基本目標に資する施策（※）		  	

（※）「第2回まち・ひと・しごと創生総合戦略・SDGs 推進本部会議」に向けて、各施策を所管する担当部局と協議の上、選定する。

総合戦略 国・県・近隣自治体 基本目標一覧

自治体	国	愛知県	名古屋市
基本目標	<デジタルの力を活用した地方の社会課題解決>	【1】結婚・出産・子育て環境づくり	※国のデジタル田園都市国家構想総合戦略も踏まえた「名古屋市長官庁計画 2028」を地方版総合戦略を兼ねるものとして令和6年度に策定
	【1】地方に仕事をつくる	【2】人の流れづくり	
	【2】人の流れをつくる	【3】しごとづくり	
	【3】結婚・出産・子育ての希望をかなえる	【4】魅力づくり	
	【4】魅力的な地域をつくる	【5】暮らしの安心を支える環境づくり	
		【6】活力ある地域づくり	
出典	デジタル田園都市国家構想総合戦略（2023 改訂版） 2023 年 12 月 26 日閣議決定	愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略 2023-2027 2023 年 10 月	名古屋市長官庁計画 2028 2025 年 4 月

自治体	豊田市	岡崎市	大府市	長久手市
基本目標	【1】しごとづくり	【1】未来のまちづくり	【1】安心して結婚・出産・子育てができるまちづくり	【1】地域・しごとづくり 地域のつながりやしごとを通じて、健やかに活躍できるまちをつくる
	【2】人の流れ・にぎわい・地域への愛着づくり	【2】未来のひとづくり	【2】オンリーワンの魅力あふれる健康都市づくり	【2】子育て支援 安心して子育てができ、子どもがすくすくと育つまちをつくる
	【3】結婚・出産・子育ての希望を叶え、こどもの成長を支える	【3】未来のしごとづくり	【3】働く場があり、活力とにぎわいのあるまちづくり	【3】観光交流 地域の様々な資源を活かし、賑わい・活気・交流をつくる
	【4】人生 100 年時代をいきいきと暮らせる魅力的な地域をつくる	【4】未来のパートナーシップづくり	【4】快適で住み心地のよい、持続可能なまちづくり	【4】地域の魅力向上 「安心・快適・便利」を高め地域の魅力をアップする
	【5】持続可能なまちづくり			
出典	豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2030 2025 年 3 月 ※第9次豊田市総合計画と一体的に策定	第2期岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2025 年 3 月一部改訂	第3次大府市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2025 年 3 月	第3期長久手市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2025-2028） 2025 年 3 月



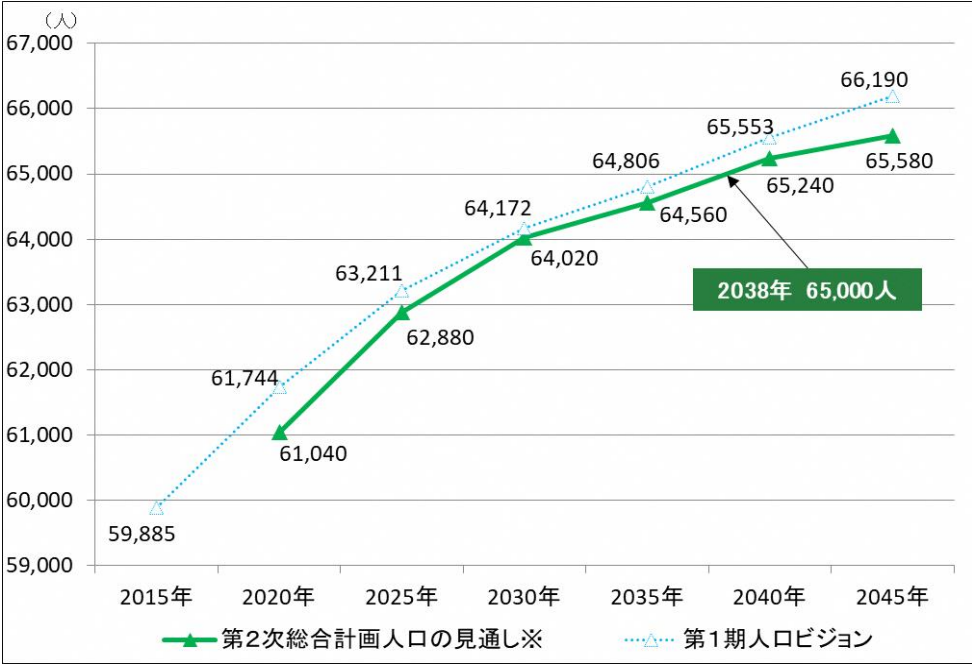
<総合戦略をめぐる動向>

1. 国は「まち・ひと・しごと創生」の内容を基本的に踏襲しつつ、「デジタルの力の活用」で横串を通す形に衣替えした。
2. 愛知県は第2期の総合戦略の基本目標に「県全体のデジタル化の推進」を追加した。
3. 近隣自治体は総合計画と一体的に策定する自治体（名古屋市、安城市、刈谷市、日進市、知立市など）が増加している。総合戦略を別個で策定する自治体では、第2期を踏襲しつつ、国の基本目標に合わせて修正する自治体もみられる。

第2期人口ビジョンの検証および第3期人口ビジョン（案）

資料4

第2期人口ビジョン（2021年）



出典）第2期みよし市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（2021年3月）P.8

将来人口の推計にあたり、採用した仮定値は以下のとおり。

■第2期人口ビジョンの考え方

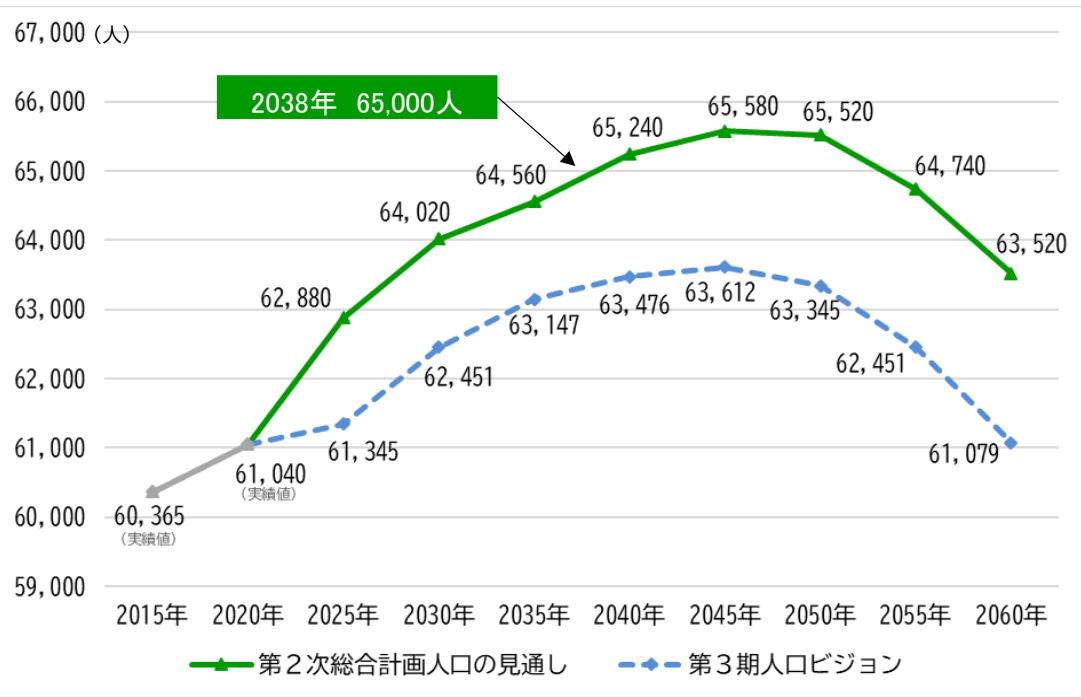
- 第2期人口ビジョンの策定年度が、第2次みよし市総合計画策定年度と近いこと。
- 住民基本台帳の実績値をベースにした推計では、第2次みよし市総合計画人口の見通しを若干上回る程度の推計人口となること。（2038年65,766人）
- 第2期総合戦略の策定により第2次みよし市総合計画の目標年次の65,000人を達成すること。

以上の理由から、第2期人口ビジョンは、第2次みよし市総合計画人口の見通しに沿うものとし、**2038年に65,000人の人口を目指すものとする。**

みよしの現状（みよしの統計（R6年度版などより）

1. 自然増減
(1) 出生
○2003年をピークに概ね**減少**傾向
(2) 死亡
○**緩やかな増加**傾向
(3) 合計特殊出生率
○1.48（2023年）で国・県より高いが、**人口維持に必要な2.07より低い。**
⇒自然増（出生＞死亡）が2022年まで続いていたが、2023年は**自然増減が均衡**（出生＝死亡）である。
（2022年：＋49人）
（2023年：± 0人）
2. 社会増減
(1) 転入
○**増減を繰り返し**ながら、平均約3,300人（2019年～2023年）で推移
(2) 転出
○**横這い**傾向
（2023年：3,301人）
⇒社会増減を繰り返している。
（2021年：－129人）
（2022年：＋107人）
（2023年：± 0人）
3. その他
(1) 区画整理など
○1971年以降、9地区（約479ha）で土地区画整理事業を実施。そのほか、黒笹山手（2020年）、筋生町山田（2024年）などの住宅開発があり、今後、福谷北地区のまちづくりも予定されている。
(2) 住宅地
○地目別土地利用で宅地が31%
○用途別土地利用で市街化区域33%、うち住居系19%
○一般世帯に占める割合で持ち家64%、一戸建59%、共同住宅40%
(3) 経済状況
○市財政（2023年度）：財政力指数1.49（他市町に比べて高い）、実質公債費比率2.5%（健全度が高い）
○市民所得（2022年度）：市民所得3,696億円、家計所得2,507億円

第3期人口ビジョン（案）



■第3期人口ビジョン（案）の考え方

- 2019年末から流行した**新型コロナウイルス感染症の影響により、外国人をはじめとした市外からの転入者数が減少**したこと。
（参考：外国人住民数の推移）
2016年度：1,732人、2017年度：1,944人、2018年度：2,159人、**2019年度：2,221人、2020年度：2,298人、2021年度：2,251人、2022年度：2,469人、2023年度：2,748人、2024年度：2,957人**
- 第3期人口ビジョンの策定年度が、第2次みよし市総合計画後期基本計画策定年度（2024年3月）と近いこと。
- 直近の年度において、**転入・転出人口比率が100%以上を維持**できていること。
（参考：転入・転出人口比率）
2023年度：101.6%、2024年度：101.8%
- 本市が実施する**地方創生の取組の継続・推進により、人口の増加・維持を図る**こと。

以上の理由から、第3期人口ビジョンは、現時点の人口を基準として、第2次みよし市総合計画における人口見通しに沿い、**2038年に63,000人の人口を目指すものとする。**

<推計方法>

項 目	第3期人口ビジョン時点の人口推計	第2期人口ビジョン時点の人口推計
基準人口	令和7年4月1日現在の住民基本台帳人口	平成27年4月1日現在の住民基本台帳人口
合計特殊出生率	1.80 ※第2次みよし市総合計画の人口見通し推計と同じ数値を採用	1.80
移動率	直近15年間の各4月1日の住民記録人口の移動率平均値 ※新型コロナウイルス感染症の影響を低減させるため、長期間の平均値を採用	直近10年間の各4月1日の住民記録人口の移動率平均値